

時間： 水曜日 2 講目 (10:40-12:10)  
教室： 7号館 D31  
担当： 浦野 研 (Urano, Ken)  
メール： [urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp](mailto:urano@ba.hokkai-s-u.ac.jp)  
ウェブサイト： <http://www.urano-ken.com/>  
研究室： 4号館 508  
オフィス・アワー： 火曜日 15:00-17:00、または email でアポイントを取ってください。

### 授業のねらい

(授業のテーマ)

この講座は、英語コミュニケーション能力のうち、特にリスニングとスピーキングに焦点を当て、リスニング課題や意見交換のためのディスカッション、与えられたテーマについての簡単なプレゼンテーション等の活動を通して実践的な学習の場を提供します。本講座はリスニングとスピーキングに焦点があてられますが、4技能を統合的に演習します。

(学習目標)

1. リスニング・スキルを高める。
2. スピーキングの fluency (流暢さ) を高める。
3. ディスカッションおよびプレゼンテーション・スキルを高める。
4. 英語をコミュニケーションの手段として用いるために必要なスキルと積極的な態度を身につける。

### 授業計画

この授業では、自分の考えを英語でスムーズに表現できるようになることを目標に、英語をたくさん聞き、たくさん話す活動を行います。

### 準備学習の内容

毎回の授業のために数分程度のビデオをオンライン上または教科書付属の DVD で視聴します。あわせて用意された宿題 (内容理解に関する問いや扱われたテーマに関して意見を問う内容) に解答し、自分の考えを発表できるよう準備します。また、授業とは別に教室外 (主に担当教員の研究室) で英語を話す機会を確保してもらいます。

- 宿題の内容
  - Video clip を視聴 (教科書付属 DVD または Moodle)。
    - ◇ Moodle では、直接視聴もできるしダウンロードもできます。
  - Moodle のディクテーション課題に解答する (締め切りは授業前日の 23:59)。何度でも解答できるので、満点を取れるようがんばってください。
  - Comprehension & Discussion Questions に答える。Question Sheet を配布するか Moodle 上で Questions を公開します。
- 教室外スピーキング活動
  - 目的
    - ◇ 英語を話す機会の確保。Speaking fluency 養成。
  - 方法
    - ◇ Moodle に用意されたスピーキング課題 (Moodle Speaking Forum) に投稿する。
    - ◇ 2,3 人で研究室に訪問し、30 分程度英語で会話をする (浦野は聞き役)。
    - ◇ 教室外で 2,3 人程度で集まって英語で会話をし、その内容を録音する。

### 教科書

- *World Adventures* by S. Berlin & M. Kobayashi (2011). 金星堂. 2,415 円。
- この他に授業プリント、ウェブサイトなどを教材に使います。

### 他に必要なもの

- **ファイル、バインダー**： 授業で使うハンドアウト（プリント）類の大半は A4 サイズです（左側に 30 穴のパンチを空けておきます）。紛失しないように、この授業専用のフォルダーやバインダーなどを用意することをおすすめします。
- **筆記用具**： 鉛筆、ペンなどのものを書く道具と、提出できるような（できれば A4 サイズの）ルーズリーフかレポート用紙を用意してください。配布されるハンドアウトと共に、フォルダーやバインダーにまとめておきましょう。
- **辞書**： 英語を聴いたり読んだりする時に単語の意味を知りたくなったり、話す時に言いたい言葉を英語でなんというか知りたくなったりすることもあると思います。この授業では用例の充実した辞書の方が役に立ちます。金銭的に余裕があれば、電子辞書が便利です。
- **ノート PC**： PC は主に家庭学習で利用します。ネット上の英語音声や映像を視聴したりする機会が多くなります。教室への PC 持込は、指示があるまでは必要ありません。

### 評価

評価内容	内訳 <sup>1</sup>	評価方法
出席、授業参加度 .....	40% .....	毎回の授業参加をポイント制で評価 <sup>2</sup>
課題提出等 .....	40% .....	課題の提出状況等
教室外スピーキング活動 .....	20% .....	ポイント制で評価
100%		

注1. 内訳（配点）はおよその目安です。授業が進行する中で修正する可能性があります。

注2. 時間通りの出席、ディスカッションでの積極的な発言等を授業参加度として評価する予定です。教室にいても発言がほとんどないなど、積極的に参加していないと判断した場合には授業に来ていても欠席に近いポイントになるので注意してください。

### 1 年次科目との違い（心がまえ）

- **単位**： 1 年次の Reading & Writing Strategies A および Communication Strategies A は、週 2 回でそれぞれ 2 単位でしたが、2 年次科目は週 1 回で半期 2 単位です（前期、後期合わせて 4 単位）。授業時数は半分に減っても単位数は同じということは、家庭学習も含めた勉強時間が減ることはありません。逆に、年次が上がる分レベル（難易度）も上がります。
- **選択科目**： 1 年次の総合実践英語科目は実質必修でしたが、2 年次科目は選択ですから、履修者はやる気のある学生と想定して授業を行います。良い成績をおさめるにはそれなりの努力が必要になりますが、努力に見合うだけの能力が身につくようこちらで責任を持って指導します。

### その他

- **座席**： 教室内の座席は基本的にこちら指定の固定制とします。
- **提出物**： 課題提出の期限を厳守してください。締め切りを過ぎた提出物は、減点対象とするか、場合によっては受け付けません。
- **出席、欠席**： 皆さんの成績のうち授業への参加度が占める割合は少なくありません。特に語学学習では授業内で行う活動に積極的に参加することがとても重要です。極力欠席をしないのももちろんのこと、遅刻もしないでください。やむを得ず遅刻、欠席をする場合は可能な限り前もって連絡してください。また、サークル活動等で欠席する場合には、担当者の印をもらった公式の欠席届を事前に提出してください。その場合に限り、欠席を埋め合わせる課題を用意します。  
これとは別に、北海学園大学では、出席時数が 3 分の 2 以下の学生については単位の認定をしないと決められていますから、注意してください（学則第 22 条）。  
遅刻や欠席をした際に、次の授業の準備や宿題等提出物に関する情報を入手するのはあなた自身の責任です（「前回欠席（遅刻）したので、今日の提出物のことを知りませんでした」は言い訳として認めません）。クラスメイトに聞く、クラスのウェブサイトを確認する、講師にメールで問い合わせるなどいろいろ方法はあります。
- **質問等**： 1 ページ目に記したように、質問等を受け付けるためのオフィス・アワーを設置しています。この時間は約束なしで研究室に来てくれて構いません。質問、相談など、遠慮せずにこの機会をどんどん利用してください。また、オフィス・アワーでは時間の都合がつかない場合には、メールで他の時間にアポイントを取ることも可能です。研究室に来て直接話さなくても済む簡単な質問等であれば、メールでももちろん構いません。